

根室市公共施設グランドデザイン構想【概要版】

グランドデザイン構想の目的

根室市には、現在23,000人の人々が住んでおり、それぞれの暮らしを営んでいます。約20年後の2045年には人口が半減することが予測されています。

このため、これからも根室市が豊かで暮らしやすいまちであり続けるために、今後の人口減少・少子高齢化の進行に合わせた公共施設の統廃合や再配置とその後の活用など、地域課題の解決に向けた方向性を示すため、「根室市公共施設グランドデザイン構想」を策定し、目指す将来像としました。

2020年の根室市の人口



2045年根室市の人口



グランドデザイン構想の対象範囲

本構想は国道44号終点から半径2km圏内の地域を対象範囲とし、人口、暮らしや経済、価値観などが様変わりすると推測される2045年を本構想の当面の目標期間とします。

国道44号終点から
半径2km圏内

対象：
市街地

約20年後の将来像

2045年

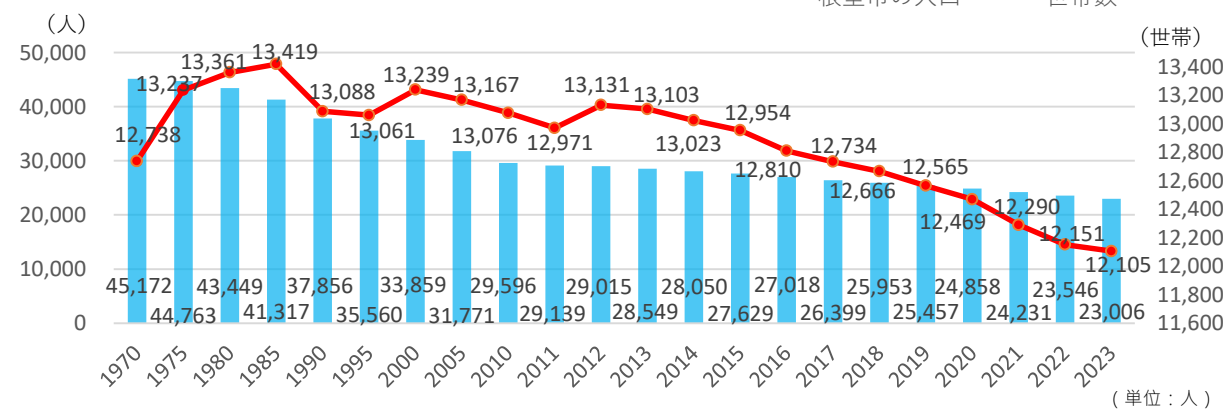
根室市の現状と将来予測

1. 加速する少子高齢化・人口減少

住民基本台帳における2023（令和5）年12月時点の根室市の総人口は23,006人で、世帯数は12,105世帯です。人口は1970（昭和45）年以降減少が続いています。

近年、外国人住民は増加傾向にありますが、加速する少子高齢化に伴い「自然減」が拡大傾向にあり、住民基本台帳法の総人口では2016（平成28）年以降600人台の減少が目立っています。

＜根室市の人口と世帯数の推移＞



	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
男	▲ 189	▲ 324	▲ 260	▲ 230	▲ 251	▲ 323	▲ 234	▲ 333	▲ 255
女	▲ 232	▲ 287	▲ 359	▲ 216	▲ 245	▲ 276	▲ 393	▲ 352	▲ 285
合計	▲ 421	▲ 611	▲ 619	▲ 446	▲ 496	▲ 599	▲ 627	▲ 685	▲ 540

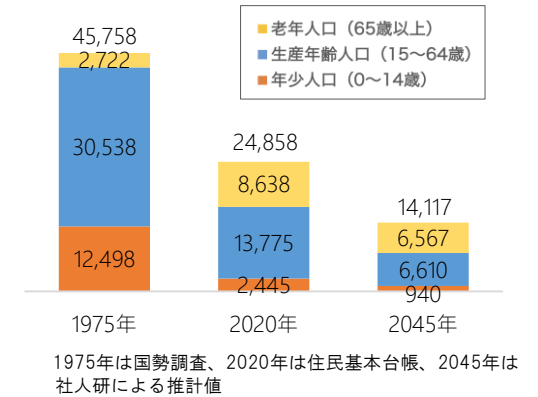
2. 2045年に人口が半減

自然減や社会減少などから本市の将来人口を推計すると、少子高齢化に伴い人口減少が進み、2045（令和27）年に現在の人口は約半分になると推測されています。

これにより、人々の暮らしや産業に大きな変化が訪れます。また、生産年齢人口割合と老年人口割合の差が少なくなり、生産年齢世代の負担が大きくなることが懸念されます。

本市全体の従業者数は人口減少に伴い、2020（令和2）年と比較して、25年後の2045（令和27）年では5,443人（53.4%）減少する見込みです。根室市内で働く人の人数が減少することにより税収入が減り、さらに高齢者の割合が増えることで医療費・介護費などの費用負担の増幅が推測されます。

■根室市全体における人口が減少する地域の状況



3. 人口減少に伴う中心市街地の空洞化

2045年の人口分布及び人口分布の状況を100m四方でさらに細かく把握すると、市街地の至る所で、『人口の空洞化』が顕著になります。

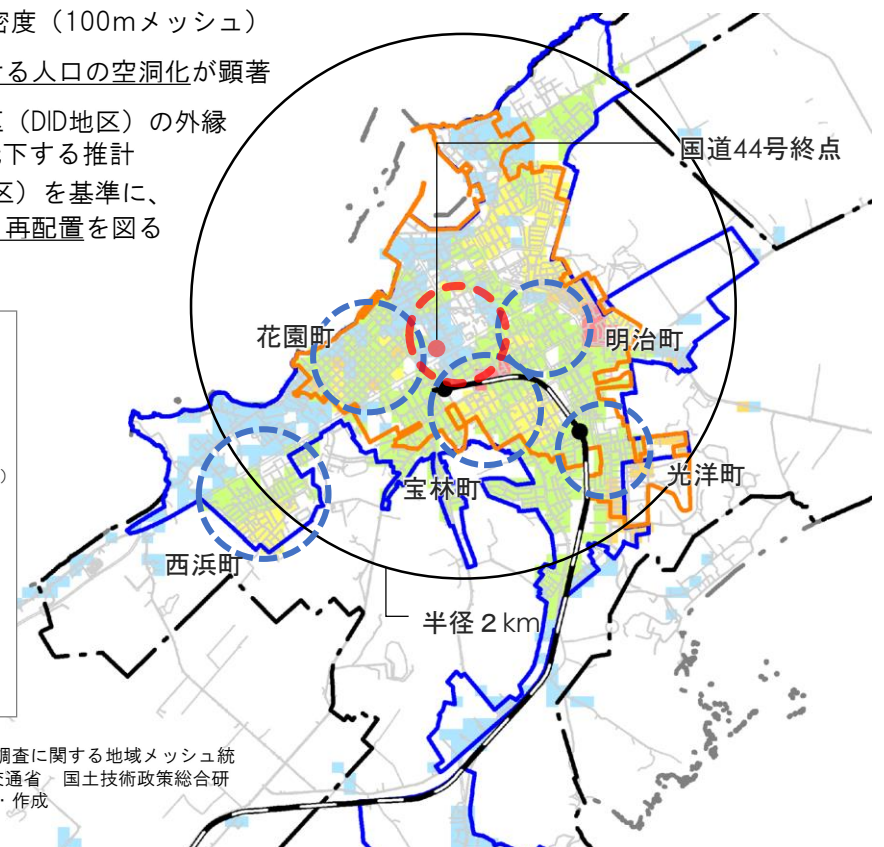
中心部や市街地に公共施設を含む市民生活を支える主要な機能を集め、職場と自宅を近づける（職住近接）などの市街地のコンパクト化を図る必要があります。

■2045年の人口分布・密度（100mメッシュ）

- 根室市役所周辺における人口の空洞化が顕著
- 西浜町は人口集中地区（DID地区）の外縁で人口密度が著しく低下する推計
- 人口集中地区（DID地区）を基準に、公共施設等の集約化と再配置を図る必要がある。



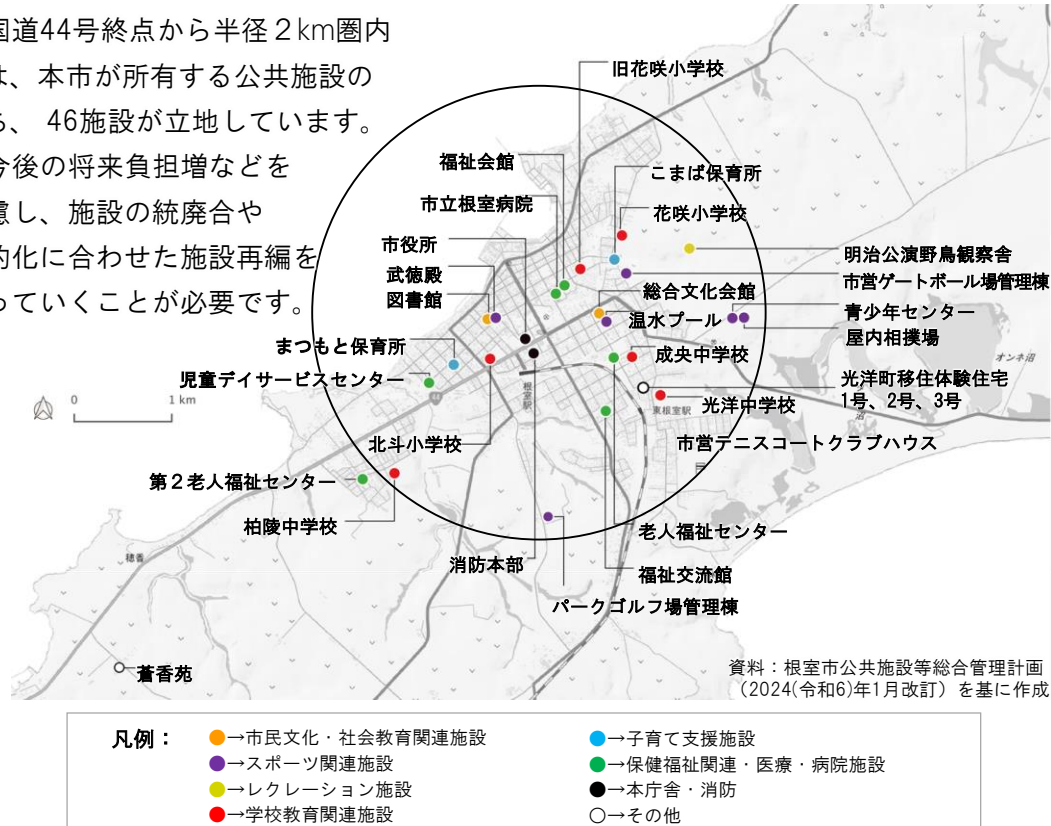
資料：2020（令和2）年国勢調査に関する地域メッシュ統計及び社人研推計結果、国土交通省 国土技術政策総合研究所のデータを基にGISで算出・作成



4. 公共施設等の適正な維持管理

国道44号終点から半径2km圏内には、本市が所有する公共施設のうち、46施設が立地しています。

今後の将来負担増などを考慮し、施設の統廃合や集約化に合わせた施設再編を図っていく必要があります。



5. ライフスタイルや価値観の変化

本市を取り巻く社会経済情勢は時代とともに絶えず変わり続けており、デジタル技術の活用により市民の利便性・快適性の向上を目指し、スマートシティの実現で人口減少などの課題に対する取り組みを進める対応が必要です。

公共施設の単一機能が離散している状況から、複数の機能が融合した暮らしへのニーズがさらに高まるものと予想され、医住近接など公共施設の集約化・再配置を進めることが必要とされます。

6. 災害リスクに適応した安全安心な市街地と施設配置

巨大地震と津波が発生した際、市街地でも浸水の危険性があります。

津波災害のリスクを最小限にすることを考慮した市街地の抑制やコンパクト化、津波浸水想定区域外への公共機能の移転集約など、安全安心な市街地の形成が必要です。

7. カーボンニュートラル、地球温暖化対策に貢献する施設整備

2045年の根室市は公共施設の管理更新においても、温室効果ガスの排出量の削減並びに吸収作用の保全及び強化を図る必要があります。

公共施設の建替時には地球温暖化対策などを考慮し、省エネルギーや再生可能エネルギーを導入し、環境に配慮することが求められます。

2045年の根室市の将来像と方針・配置構想

根室市の現状と将来予測を踏まえて、2045年の将来像を展望し、公共施設グランドデザイン構想の方針を以下のように整理します。

将来像

コンパクトな中に豊かな暮らしがとけあう市街地

集約型都市構造の実現

方針 01

コンパクトな市街地に公共施設の集約化

- すでにコンパクトな街が形成されているが、超高齢社会の中でさらなるコンパクト化を推進
- 人口変動に合わせて、市街化を抑制
- 海拔から最も標高が高い市役所付近を基準としつつ、国道44号終点から半径2km（およそその都市計画範囲）圏内で必要な機能を集約

方針 02

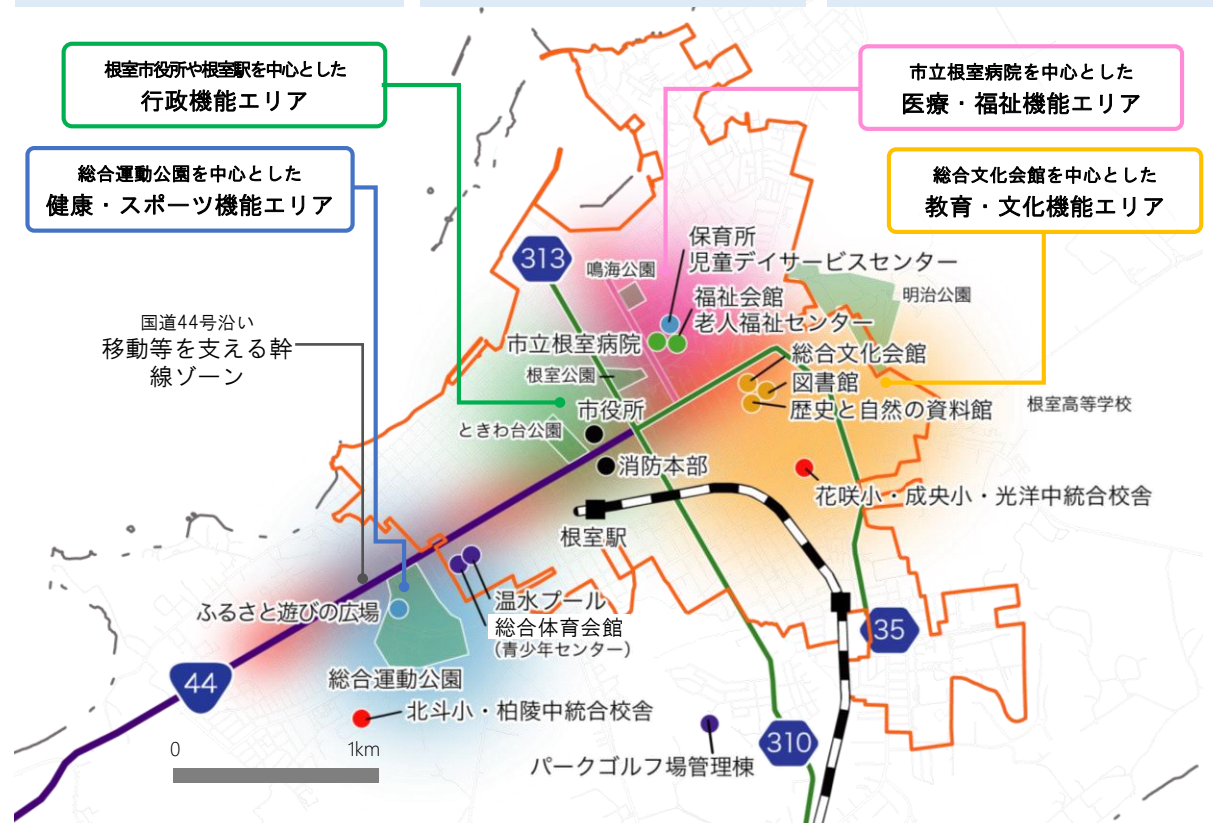
公共施設の統廃合

- 維持管理費の負担軽減を図る視点から、必要性が低い施設を廃止・縮小
- 市民生活を支える機能を中心に公共施設を統廃合
- コンパクト化した市街地の範囲内で統廃合した公共施設を配置

方針 03

エリアごとの再配置

- 公共施設の統廃合と合わせて、市街地を4つのエリアに分類
- 4つのエリアの特性に合わせて、市民の暮らしやすさを支援できるように公共施設を再配置



民間起点に基づく賑わいづくり

2045（令和27）年の根室市は人口が半減するため、人口変動に応じた市街地の再編が必要です。4つのエリアを形成した上で、市民の暮らしやすさを支援できるよう公共施設の集約化を図ります。

また、将来にわたり持続可能なまちづくりを進めていくためには、地域の自立と連携、安全・安心、暮らしの質の向上、コミュニティの維持・再生、地域産業の維持・振興、雇用創出等につなげていく視点が重要であることから、交流人口拡大による地域活性化に取り組むため、民間投資の喚起を通じた賑わいづくりの核となる交流拠点の概要及び開発コンセプトを構想します。

1. 賑わいづくり開発コンセプト

根室の魅力を再発見し、形づくる 「根室DISCOVER×ACTIONプロジェクト」

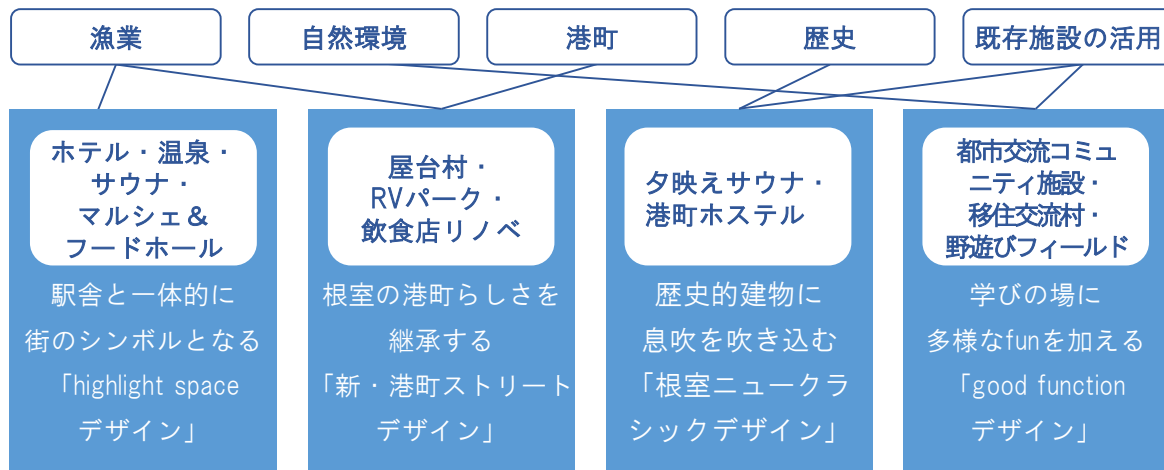
本市は、国内有数の豊富な水産資源や、根室半島や落石に代表される圧倒的な自然環境、学びの多い北方四島の暮らしや歴史など、他には類を見ない多様な資源に恵まれているまちです。

それらの資源を、多くの人に発見してもらえるようPRを行い、さらに旅行者が買い物や食事、宿泊を通じて本市の魅力を体験できる場を作ります。

さらに市民は、市民同士や来訪者とのコミュニティの場を設けることで、日々の生活が充実するとともに、来訪者が増え接する機会が増えることで、来訪者の目線を通した根室市の新たな魅力を再発見します。

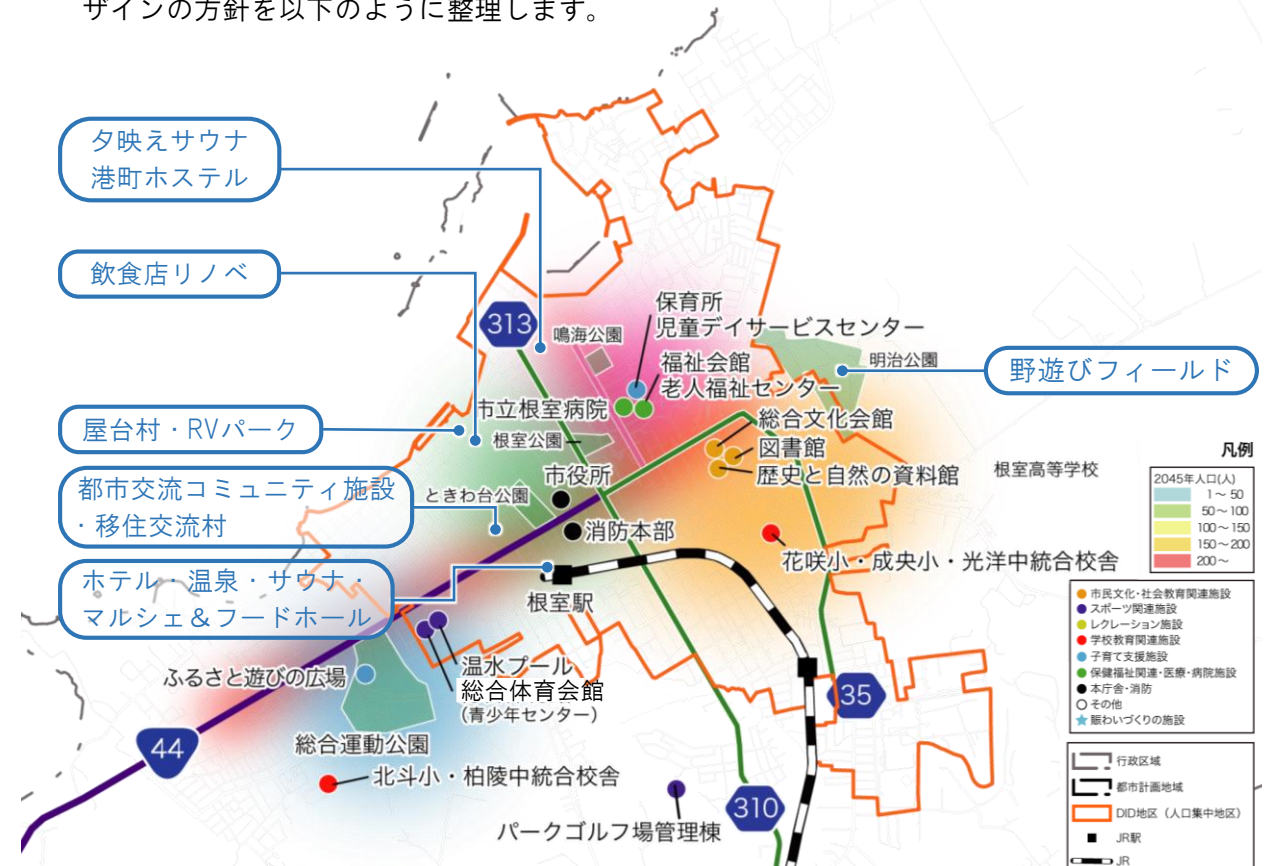
持続可能なまちづくりのコンセプト

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| ① 既存施設の再利用やリユース資材を活用した建築計画 | ② 民間活力を活用した事業構築 |
| ③ 自然を交流資源とするとともに、保全するための活動 | ④ SDGsの考え方を取り入れたまちづくりプランの作成 |



賑わいづくりのデザインと展開

根室市の現状と将来予測を踏まえて、2045年の将来像を展望し、公共施設のグランドデザインの方針を以下のように整理します。



根室FOOD CULTURE MARCHE
ホテル・温泉・サウナ・マルシェ&フードホール



街に開かれた、夕映えホテル
夕映えサウナ・港町ホテル



港を灯す屋台村
屋台村・RVパーク・飲食店リノベ



学校跡地等を活用した、
都市交流コミュニティ施設・移住交流村・
野遊びフィールド



1 医療・福祉機能エリア

市立根室病院周辺



心身の健やかな環境を
守る拠点エリア



2045年の主要な公共施設等

再配置の考え方

- 児童デイサービスセンター、保育所、福祉会館、老人福祉センター等は市立根室病院の周辺敷地に移転

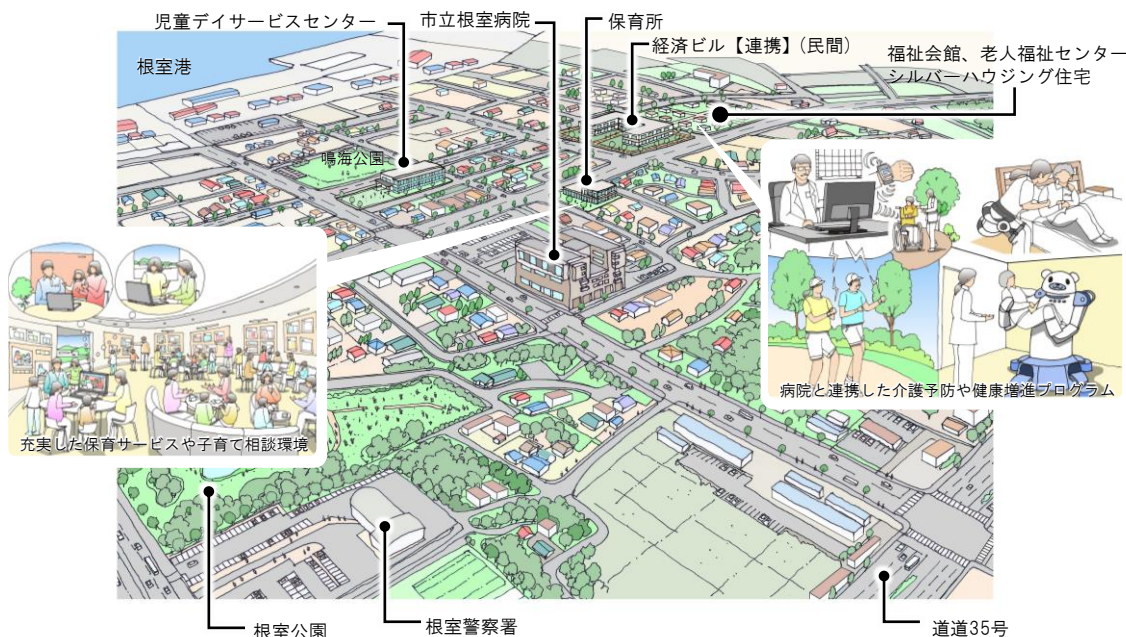
2045年に配置されている主要な公共施設

- 市立根室病院
- 保育所（こまば、まつもと保育所の機能統合）
- 児童デイサービスセンター
- 老人福祉センター（第2老人福祉センターの機能統合）
- 福祉会館（福祉交流館の機能統合）



公共施設等を活用した活動や暮らしのイメージ

- 市立根室病院の周辺に各福祉機能が集約されたことで、医療施設と福祉施設の相互利用が進み、利便性が高まっています。
- 児童デイサービスセンターや保育所は、保育サービスや子育て相談体制が充実しています。
- 福祉会館や老人福祉センターは、医療と連携した介護予防や健康増進のプログラムが充実し、高齢者だけでなくさまざまな世代が施設を利用しています。
- 施設利用者が根室公園や鳴海公園へ日常的に足を運び、健康の維持増進や交流が生まれています。



2 教育・文化機能エリア

総合文化会館周辺



豊かな心と文化を創り育むエリア



2045年の主要な公共施設等

再配置の考え方

- 総合文化会館は現在位置のままで、図書館を総合文化会館の周辺敷地に移転
- 北斗・成央・光洋学校給食共同調理場は集約化等を検討
- 花咲小、成央小、光洋中学校の集約
- 歴史と自然の資料館は総合文化会館の周辺敷地に移転

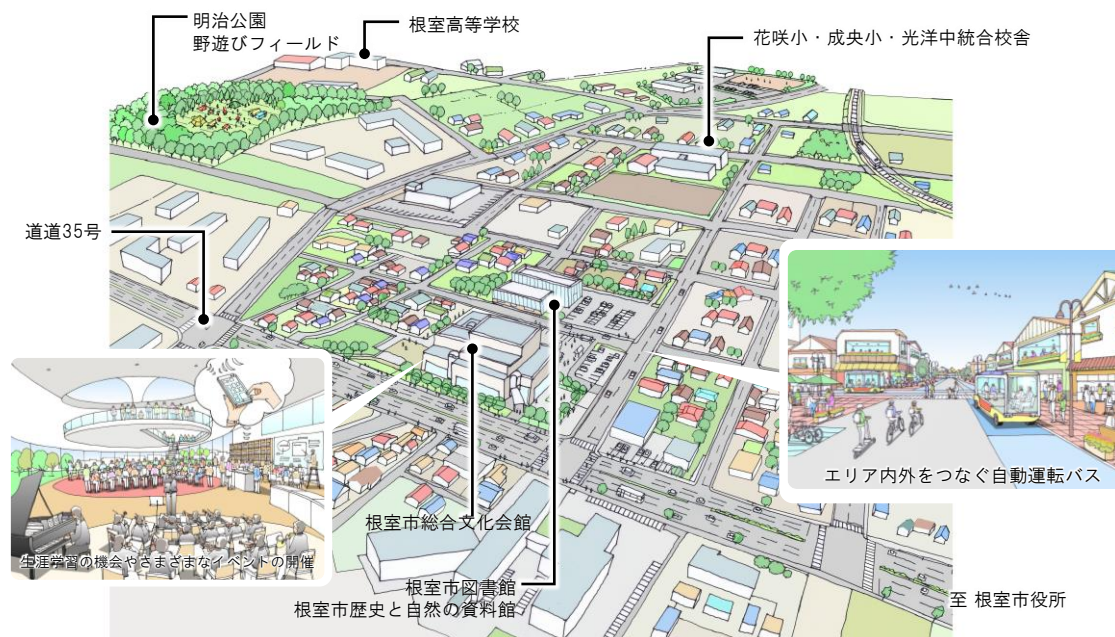
2045年に配置されている主要な公共施設

- 総合文化会館
- 花咲小、成央小、光洋中学校（花咲小・成央小・光洋中統合校舎）
- 根室高等学校
- 図書館、歴史と自然の資料館
- 明治公園



公共施設等を活用した活動や暮らしのイメージ

- 総合文化会館では生涯学習の機会やさまざまなイベントが開催されています。
- 小・中学校や図書館、資料館では、相互に連携しながら地域コミュニティを育む活動や多様な学習の機会があります。
- 明治公園ではバードウォッチングのほか、焚き火ができる野遊びフィールドが設置され、日帰りキャンプなど市民が休日の余暇を楽しんでいます。
- エリア内外をつなぐ自動運転バスが官民の活力を活かして運行され、市民の足となっています。



3

健康・スポーツ機能エリア

総合運動公園周辺



健康とスポーツ振興を通じた
交流あふれるエリア



2045年の主要な公共施設等

再配置の考え方

- ・ 青少年センター、温水プール、武徳殿、市営球場は総合運動公園周辺に移転
- ・ ふるさと遊びの広場は現在位置
- ・ 都市交流コミュニティ施設の整備

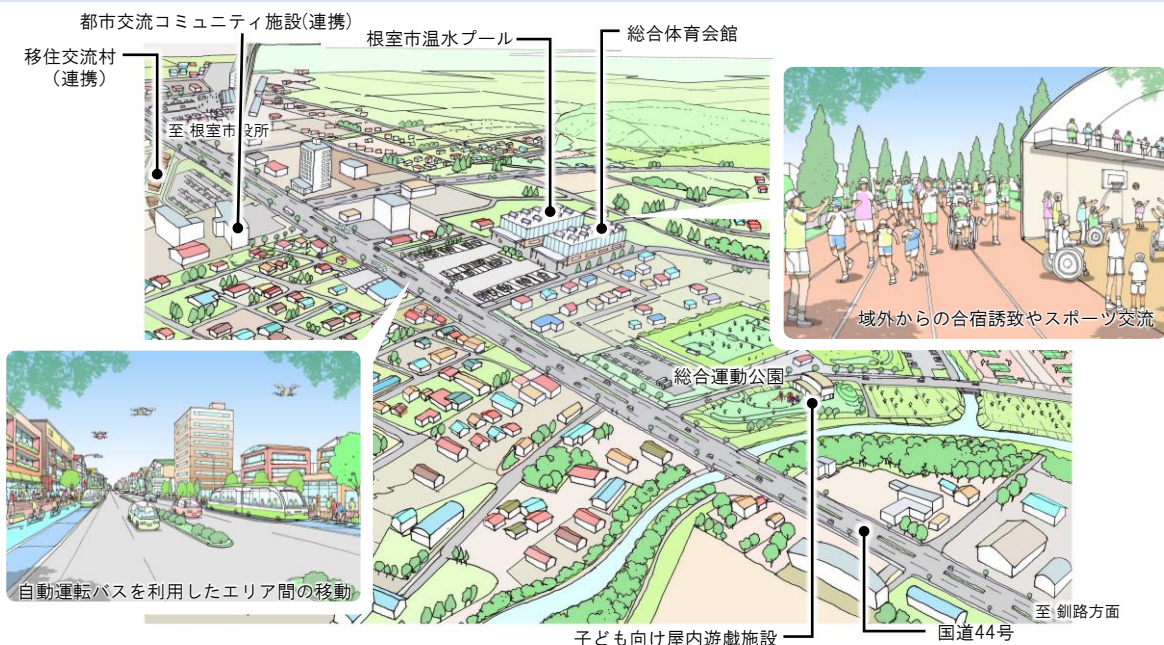
2045年に配置されている主要な公共施設

- ・ 総合体育会館、温水プール
- ・ 子ども向け屋内遊戯施設
- ・ 総合運動公園
- ・ 都市交流コミュニティ施設



公共施設等を活用した活動や暮らしのイメージ

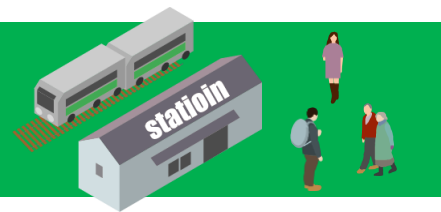
- ・ 旧柏陵中学校跡地に総合体育会館や温水プールが開設され、域外からの合宿誘致やスポーツ交流が進んでいます。
- ・ 子ども向け屋内遊戯施設には市内を中心に域外からも親子が集まり、周囲の芝生や運動施設を活用したスポーツ教室が開かれています。
- ・ 中心市街地から総合運動公園への移動には自動運転バスが運行され、屋外・屋内施設を日常的に利用しています。
- ・ 都市交流コミュニティ施設では、休日に市民がキャンプを楽しんだり、来訪者がサイクリングやカヌーなどアウトドアに親しんでいます。



4

行政機能エリア

根室駅周辺



公共機能を集積した
まちの顔となるエリア



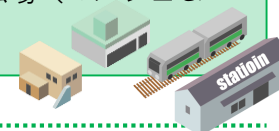
2045年の主要な公共施設等

再配置の考え方

- ・ 市役所、市消防署は行政活動の拠点及び防災拠点であるため、現在位置
- ・ 国や北海道など各官公庁施設は、緊急輸送道路に面した現在位置
- ・ 温泉サウナ付きホテル、駅舎、バスターミナル、道の駅などの機能が一体化した交流拠点づくり

2045年に配置されている主要な公共施設

- ・ 根室市役所、根室市消防署
- ・ 北海道根室振興局
- ・ 根室地方合同庁舎、根室警察署
- ・ JR根室駅、根室駅前バスターミナル
- ・ 道の駅、根室駅前広場（マルシェ＆フードホール）



公共施設等を活用した活動や暮らしのイメージ

- ・ 根室駅前広場や市役所駐車場などの屋外公共空間を活用し、道の駅としてオープンカフェやマルシェなどの賑わいがつくられています。
- ・ 公共施設の屋内スペース、公園や歩行空間などのオープンスペースでも、フリーマーケットや市民主体の取組が行われています。
- ・ まちなか居住機能が導入され、医療、福祉機能エリアとつながった暮らしがあります。
- ・ 様々なソフト事業を試行しながらハード機能を使いこなすエリアマネジメントの構築が進められています。

